

内科 - 内科総合研修

1 プログラムの目的

2年間の初期臨床研修を修了した後すぐに専門科に所属する場合、専門科以外の内科領域に関して十分な研修が行えない可能性がある。

本プログラムはさらに2年間、広く内科研修を希望する研修医のために用意されている。

2年間の後期臨床研修が修了すれば認定内科医試験の受験資格を得ることができる。

2 指導責任者

(1) プログラム責任者

東京労災病院呼吸器内科部長 戸島 洋一

(2) 研修指導医

東京労災病院内科部長（副院長）	児島 辰也
東京労災病院消化器内科部長	西中川 秀太
東京労災病院第二消化器内科部長	大場 信之
東京労災病院循環器科部長	酒井 英行
東京労災病院神経内科部長	新井 大輔
東京労災病院腎代謝内科部長	内藤 隆
東京労災病院呼吸器内科部長	戸島 洋一
東京労災病院糖尿病・内分泌内科部長	桑原 公一郎

3 教育目標

患者の多様なニーズに対応できる知識、技術をもち、様々な臨床現場で患者、スタッフと良好な人間関係を構築できる臨床医を育てることを目標とする。

初期臨床研修で身に付けた基礎的な事項に加え、さらに専門医として必要な知識、技能を修得し、学会報告などを通じて臨床研究についての見識も深める。

4 研修方法

1単位を6ヶ月とし、2年間計4単位を各自の選択によってローテートする。

診療科は

1. 消化器内科、2. 循環器科、3. 神経内科、4. 腎臓代謝内科、5. 呼吸器内科、6. 糖尿病内科
の中から選択する。

診療科は2つ以上選択する。

1つの診療科で2～3単位研修してもよい。
詳細は各科の後期臨床研修プログラムによる。

2年間を通じて、内科医として救急診療にも従事する。

具体的には、毎週半日程度の救急当番、月に2～3回の当直業務などである。

所属選択科のスケジュール以外に、内科全体でのカンファランスや病院全体でのカンファランスにも出席する。

5 プログラム終了後の進路

研修終了後は研修委員会や研修指導責任者の評価により、スタッフとして専門科に残る道も開かれている。